

すなお

令和7年8月号

発行所 天理教瀬戸路分教会

〒794-0007 今治市近見町4-5-10

URL <https://www.tenrikyo-setoji.net/>

☎ 0898-23-5004 責任者 二宮英治

発行日 2025.8.16 通巻 No.781



会 長

今年の夏はとても忙しい日々となりました。7月27日から8月3日までの8日間は、こどもおちばがえりが開催され、中和詰所においては26日、27日の2日間「ミッド・ハーモニック・フェスティバル（中和の祭典）」と題してバンド演奏やクイズ大会が開催され、2日目には韓国から帰って来られた人たちも参加して下さいました。急なことではありましたが、テコンドーの演舞を子供たちが見せてくれたり、通訳の方を介してのクイズ大会も非常に盛り上がりました。

私自身は31日、8月1日とおつとめなまび教室の講師の御用をつとめさせていただきました。その短い期間中に真柱様の奥様の巡視があり、直接声も掛けていただくという不思議もいただきました。その巡視の前には少年会員3名、育成会員1名、計4名のおてふり指導をさせていただきましたが、その中の1人の子供が友達を誘っておちばへ帰って来て、おてふり教室へ一緒に参加してくれていました。

思い返せば瀬戸路でも私が小・中学生の頃は、こうした友達を誘っておちばがえりというのは毎年、当然のように繰り返されていました。その後、バンド活動が始まりだんだんこうした形のこどもおちばがえりが少なくなっていました。幾度かバンドとそれ以外のおちばがえりを企画、実行したこともありましたが、今年は昨年を引き続き、親子での参加が多かったのですが、小さい頃からおちばへ帰ることを身につけることは、とても大切なことと思います。

教祖伝逸話篇117『父母に連れられて』というお話があります。

明治15、6年頃のこと。梅谷四郎兵衛が、当時5、6歳の梅次郎を連れて、お屋敷へ帰らせて頂いたところ、梅次郎は赤衣を召された教祖にお目にかかって、当時煙草屋の看板に描いていた姫達磨を思い出したのか、「達磨はん、達磨はん」と言った。

それに恐縮した四郎兵衛は、次にお屋敷へ帰らせて頂く時、梅次郎を同伴しなかったところ、教祖は、

「梅次郎さんは、どうしました。道切れるで。」と仰せられた。

このお言葉を頂いてから、梅次郎は毎度、父母に連れられて、心楽しくお屋敷へ帰らせて頂いた、という。

この梅谷家は現在の船場大教会へと繋がっています。

子供に信仰を伝えるには、教理で納得させるというよりも日々の姿や月々の動きによって身につけさせることが大切だと思います。さらには、信仰によって味わった喜びを言葉に出して伝えるということだと思います。大人になれば悟るということも出来ますが、子供の頃は「ごはんを食べることが出来て嬉しいね」とか「心臓が動いてありがたいね」とか具体的に伝えることが必要です。そのためには、親や大人がまずそのことを感じる事が一番です。

信仰は難しくありません。喜びを見つけることです。そして、伝えることです。共に歩みましょう。



おぢばで成長した姿を

田中 道則

今年は子供7人、大人13人の20人で賑やかにこどもおぢばがえりをさせてもらいました。参拝をして夕食を頂き、詰所のお楽しみ行事に参加させてもらいました。その後、子供たちが寝てからスタミナラーメンを何人かで食べに行きました。翌27日は天大体育館のアスレチックに行き子供たちが元気に走り回っていました。暑い中でしたがみんなで対策をしながら事故やケガなくつとめることが出来ました。

それぞれが一年成長できた姿を親神様、教祖に見て頂きおぢばで大きな徳をもらいました。来年も元気で帰らせてもらえるよう日々おつとめ、ひのきしんに励ませてもらいます。

《教会ニュース》

秋の霊祭

9月1日には秋の霊祭を午後7時よりつとめさせていただきます。日中仕事後のおつとめになりますが、どうぞよろしくお願いします。

愛媛教区にをいがけ研修会

8月30日 10:00～14:40 講話「教祖を身近に感じて」と題して是則（このり）ちなみ先生より

天龍講別席おぢばがえり団参

10月26日（日）に開催されます。今年、まだおぢばへ帰っておられない方。また、初めて帰られる方をお誘いして共におぢばへ帰らせていただきましょう。



編集後記

暦の上ではもう秋です。が暑い日が続いています。熱中症に気を付けたいですね。お盆休みに入って、街中を車で走っていると、県外ナンバーの車を多く見かけます。帰省やレジャーなど色々目的は違うと思いますが、楽しい時間を過ごして欲しいと思います。

我が家に於いても、娘と次男が帰省しています。少しの間ではありますが、楽しく過ごしたいと思います。

先日、娘がおびやゆるしを頂きました。秋には出産を迎えます。不安と喜びが入り混じっていることと思います。元気な赤ちゃんが生まれることを、心から願ってやまない今日この頃です。

（編集者K）